



Hiroshima City University Language Center

広島市立大学語学センター
Newsletter No.34 (2009.3.31)



中国語担当、加藤先生のメッセージ

本学で15年間、中国語の授業を担当された加藤先生からメッセージをいただきました。先生が中華料理店で中国語でオーダーされた時、それを聞いた中国人の店員は、いくら先生が日本人だと言っても中国人と信じて疑わなかったというエピソードさえあります。そんな先生の知られざる語学遍歴はとても刺激的です。＜編集者注＞

目次：

加藤先生のメッセージ

わたしの語学遍歴・・・・・・・・・・1

ミニコラム：

芸術学部 松尾先生・・・・・・・・・・2

センター空き教室利用・・・・・・・・・・2

ヒロシマ人宛書簡4・・・・・・・・・・3

映画上映会

新年度定期購読 他・・・・・・・・・・4

わたしの語学遍歴—多少かじること

国際学部教授 加藤千代



上海大学での講義風景（2009年3月）

この3月で定年を迎えるわたしの、ちょっとした思い出話を聞いてください。

高校時代、世の中の欧米重視の雰囲気反発して、大学ではアジアの勉強をするのだと決めていた私は、史学科東洋史専攻に入学し、第一外国語に中国語、第二に英語を履修し、ハングルの授業にも自主参加しました。中国語は4年生まで授業があり、先生がご自宅での餃子パーティや夏休みの合宿まで、よく面倒を見ていただきました。ハングルは2年生まで。仕上げて、当時は一定の評価のあった金日成の文章を辞書と首っ引きで読んだりしました。

大学院（中国文学専攻）に入って、チベット語を2年間勉強。インドのチベット亡命政府から、東京の東

洋文庫に派遣されたばかりのソナム・ギャツォ先生（もと有名寺院のご住職）を大学にお招きして、週1回の授業でした。ソナム先生が、その時は日本語も英語も中国語も話されなかったので、2・3人いた受講生とのコミュニケーションは、難しく、かつ不思議に楽しいものでした。その後、先生の日本語はめきめきと上達しました。

大学院時代が、運悪く中国の文化大革命（1966～1976）と重なり、中国民俗学を専門としながら、チベットはおろか中国への留学もかないませんでした。ところがネパールの山岳少数民族（チベット系）の調査なら可能ということでヒマラヤへ出かけました（約2年間滞在）。ネパール語は、日本に留学中のネパール人を先生として勉強。発音は中国語と違って難しくなく、文法が日本語に似ているので、学びやすいと思います。大学の助手（現在の助教）時代には、ドイツ語の『中国昔話のタイプ索引』を読む必要から東京のゲーテ・インスティトゥートの短期集中コースに通ったりもしました。なお、念願の中国長期留学は90年代初めに実現しました。

さて、「わたしの語学遍歴」と題しながら、じつは、中国語以外は皆その時限りで継続できなくて、多少かじった程度です。語学の目的は、手段として使いこなすことにあります。しかし、“多少かじる”ことも、多様な文化とそこに生きる人びとを知り尊重することの第一歩として十分役に立ちます。本学には幸い第二外国語が8種も開講されています。一つと言わず、二つ、三つと語学の旅を重ねてくださるよう願っています。

「communication toolとしての言語」



思えば1988年、23才でアメリカ、ピッツバーグ市に留学した時、学生食堂でいくら“coffee, please”と言っても”コーラ (coke)”が出てきた。嫌いなコーラをしぶしぶ飲みながら「なぜ？」と思いつつ、翌日も翌々日も”coffee”と言って”coke”をもらう、を繰り返した。強面の黒人のレジ担当者を相手に四苦八苦のあげく、何日も経ってやっと好物の”coffee”にありついた。「f」の音が正しく発音出来ていなかったのだ。

そんな事には気付かず、「恥ずかしい」と「悔しい」思いで、目の前のコーラを恨めしく思ったものだ。自分がどんな顔や身振りで好きな“coffee”まで行き着いたのか、薄いアメリカンコーヒーが目の前に出された頃には、きっと表情や身振り、そして「f」の発音もなんとか伝わるくらいにはなっていただろう。そう、自分にとって正しいではなく、相手にとって正しい方法(発音や表現)ができて初めてコミュニケーションが取れたのだ。

アメリカにはアメリカの、イギリスにはイギリスの、アジアにはアジアの英語がある。言葉はcommunication toolなのだから、まず、文法や発音より、はっきりと大きな声で、相手にわかり易く話す「伝わるように」を心がけるべきだと思う。要は相手があつてのコミュニケーションなのだ。相手の言葉をよく聞き、自分の言葉を話す。お互いの文化を尊重して、言葉や行動を理解する。誤解が生じたら、それを解く努力をする。そんな、日常の些細な努力と根気でコミュニケーションと友好は深まり、言語能力は高まると思う。よく言われる事だが、コミュニケーションの55%がイントネーションとジェスチャー、38%が表情、残り7%が言語で行われている。我々は自分の気持ちを色々な方法で表しているのだ。「何をどう伝えるか」、コミュニケーションにもアートにも通じる課題である。

さて英語と比べると、日本語には形容詞が少ないように感じる。例えば、だれもが何にでも使用する「かわいい」とはどういう意味で使われているのか?“cute”, “pretty”, “excellent”という意味だけではなく、曖昧な返事をする時も使用されている気がする。それは”ordinary”や”cheap”を意味するかもしれない。現在日本の特徴の一つではあるが「かわいい」の過剰な使用は、正しい日本語を置き去りにして、語彙や思考を貧困へ向かわせるのでは、と危険に思うと同時に、日本人特有の「物言わず伝える文化」の片鱗を見る気もする。自分の未熟な言葉遣いを戒め、日本語も英語もバランス良く学び、豊かに表現出来るように努力したい。

帰国後、英会話を教える職も経た私自身の英語学習方法は、年を重ねるごとに変化してきた。今では本学の語学センターに通うのを楽しみにしている。アットホームなセンターの皆さんはとても親切で、アドバイスを頂きながら、雑誌やCD、DVDを借りて好きな時に楽しんでいる。

そうそう、変化といえば、あの苦手だったコーラも、留学以降すっかり好きになったのだから、自分の味覚の嗜好も勝手なものである。

追記：最近、鶴田マリさんの“A fruitful life”を読んだ。アメリカ生まれの筆者は、戦後日本に移り、広島YMCAで英語教育に情熱を注いだ方である。希望者は、語学センターで借りてぜひ読んでほしい。日英2カ国語の本。



sweet and bitter coffee

🌸 語学センターの空き教室が利用できます 🌸

授業で使用されていない時間帯に語学センター教室を利用することができます。単発でご使用を希望される先生は、大学HPから「大学情報サービスシステム」にログインの後、「施設」タブをクリックして、「実習室」から語学センター教室の予約をしてください。CALL集中(自習型授業)などでの使用もありますので、事前に語学センター事務室までご連絡いただき、予約状況のご確認をお願いいたします

語学センター空き教室は学生も使用できますので、

希望者は自習室カウンターで申し込んでください。(クラブやゼミなどの担当教官の承認のない個人の使用は原則として認めていません。)ただし、教員からの使用希望や、保守業者による作業があればそちらが優先されるため、先に予約を入れていても使用できなくなる場合がありますのでご了承下さい。

語学センター内教室は、CALL教室の他に、共同研究室やスタジオ・編集室の使用も可能です。



ヒロシマ人宛書簡4

松山のタルト、広島のヤスリ

H先生、いまま金曜帰広月曜来松で四国西北十五万石城下での教鞭生活、御無事にお過ごしでしょうか。旧城内の県立美術館、名作映画のルナテック、それにももちろん温泉、行ってますか。労を慰め、気を満たして下さい。生を養う、いいものです。ローマンこと労研饅頭はいかがですか。それにあの、柚子のあんをカステラで巻いた、切ればのの字がしっとり黒々と現れる、あの一六タルト、召しあがってますか。固有の名とともに立ちあがる味覚の普遍の記憶。どうかプールのマドレーヌの味をも思い出して下さい。

卒業と入学の式典間の1日、日帰りで松山に行きました。おおげさに言えば人生の重荷の荷おろしのための小旅行です。ほんとうは

伊丹十三記念館なるミュージアムの視察学習が目的だったのですが、割安団体パックスツアー利用ゆえ添乗員氏の断固たる拒否により途中エスケープかなわず、砥部焼セールと道後散策、旅行社の企画どおりに移動してきたのです。

砥部焼の皿一枚を漁って新聞紙にくるんでもらうこともなく、(ああ、とべといわれてもとべぬ実人生の重さ、焼ききれぬ凡俗の生臭さ)、入湯してからだをあたためることもなく、つまるところ子規記念博物館ひとつをゆっくり見てきただけでした。いいのです、それで。

松山のみやげは子規博ミュージアムショップで買い求めた「子規さん俳句かるた」(説明省くが学術性豊かな逸品です。1800円)と岩波文庫2冊、柴田宵曲『評伝正岡子規』'86、和田茂樹編『漱石・子規往復書簡集』'02。

俳句俳文だからなのだと思いますか、子規関連の文庫本は道中、車中の書としてうってつけなのです。『松蘿玉液』『仰臥漫録』『墨汁一滴』などを讀んだおりのふくらんだ心地良さ(むろんコワイところもありますが)を思い出しました。家に帰ってひどい状態の本置き場を掘り返し阿部昭編『飯待つ間』、栗津則雄編『筆まかせ抄』、さらに内藤鳴雪『鳴雪自叙伝』、柴田宵曲『古句を観る』、同『団扇の画』などの文庫本と次々と再会できたのはよかった。よかったのだけど、ナント、宵曲『評伝正岡子規』は既に購入所蔵していたことを発見しアレレと、蔵書管理のだらしなさはもとより、記憶の不甲斐なさの迫りくる新段階に落ちこみまし

た。

さてH先生、この書簡のほんとうの話題は愛媛県喜多郡大瀬村出生、内子高入学、松山東高転入・卒業の大江健三郎の『ヒロシマ・ノート』岩波新書'65を再読してのものであるつもりで書きだしたのでした。

《原爆は威力として知られたか。人間的悲惨として知られたか》、《その被災

の人的悲惨について、世界中の人に周知徹底させること》(金井利博)。「もしひと夏を広島ですごし、原爆記念日をめぐる報道を丹念に読むなら誰でも中国新聞がもっとも信頼にたる新聞であることに気がつくはずである」(同書56-57頁)。

本屋に行けばいつでもどこでも『ヒロシマ・ノート』があるこ



浅野泉邸の池では、死体のあいだを、生きた鯉がおよいでいました。

とは確かに重要です。累計100万部のヒロシマ入門書です。記憶にとどめておきたいその記述。忘却予防に何年かおきには再読したい本です。

今回の再読で印象的なのはⅢ章「モラリストの広島」です。

「苛酷な経験によっておのずからモラリスト、人性批評家となった人びと」に囲まれて僕の広島生活も成立していたのでしょうか。Ⅲ章で14人程が紹介されています。その人々とそのまわりにいた人々の現在を考えます。

僕の能力のなさによって、うまく『ヒロシマ・ノート』再読の感想を伝えられませんでした。H先生、丸木夫妻の挿絵をあらためて御覧下さい。絵本『ピカドン』の最も「効果的」！な使用例とも言えます。絵が助け、その挿絵を下の文が深めてもいます。子規、漱石の絵画愛好や大江ゆかり氏の絵画によって飾られた『恢復する家族』講談社'95、25-33頁の記述もうるわしい。大江健三郎は子規博開館に際しての記念講演者でもあったのでした。

H先生、騒音軍害下の岩国市民御用の法律学者としての先生の御活躍に敬意を表します。大江は広島こそが彼を磨く基本的にしていちばん硬いヤスリだと記しました。広島市民の僕、及ばずながら「岩国のヤスリ」を意識しております。お元気で。

(雄負剣血)

[なお前号本欄最末尾に次の執筆者名が脱落していました。]

(王維検地)

詳細は決まり次第、
 掲示やHPなどでお知らせします。

新年度の定期購読雑誌に新トレンド！

ブラウザが IE7.0 に変わります



プリント枚数制限のリセットについて

発行日 2009年3月31日
発行 広島市立大学語学センター
〒731-3194
広島市安佐南区大塚東3-4-1
編集 堀本真由美
伊達美和子（内線：6410）
Phone (082)830-1509
Fax (082)830-1794
E-mail lang@intl.hiroshima-cu.ac.jp
ホームページ
[http://call.lang.hiroshima-cu.ac.jp/
lang/index.html](http://call.lang.hiroshima-cu.ac.jp/lang/index.html)

